

令和八年六月第二回人吉市議会定例会の開催に当たり、市政に対する所信の一端を申し上げる機会を与えていただきましたことに、心から厚くお礼を申し上げます。

所信を申し上げる前に、一般の職員の懲戒処分に関し、改めて御報告を申し上げます。令和五年度七地区農地復旧工事に関し、本市職員による不適正な事務処理が明らかとなり、去る五月二十日付けで関係職員の懲戒処分等を行いました。本件は、所管課における事務処理が適正に行われず、必要な協議や予算措置を経ないまま工事の追加が進められた結果、工事費の一部が未払いのまま今日に至っている事案でございます。組織としてのチェック機能が働かず、事案の発覚後においてもなお適切な対応がなされなかったことは、断じて容認できないことであり、極めて重く受け止めております。

誠実かつ真摯に工事に取り組んでいたいただいた請負業者様、そして本市の行政運営を信じてお支えくださっている市民の皆様、多大なる御不信と御不安をおかけいたしましたことについて、市政を預かる者として、心から深くお詫び申し上げます。

未払金等につきましては、議会にお諮りした上で速やかに必要な予算措置を講じ、請負業者様への責任を確実に果たしてまいります。併せて、組織内のチェック体制及び予算・契約事務の在り方について、改めて検証を行ってまいります。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、失われた信頼の回復に向け、全力で取り組んでまいりますので、今後の市政運営に対しまして、引き続き御指導、御鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

今回、全国市議会議長会において表彰されました、平田清吉議員、大塚則男議員、宮崎保議員におかれましては、心からお祝いを申し上げます。これまでの御尽力に深く敬意を表しますとともに、今後益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

今年、熊本地震から十年という節目の年であり、令和二年七月豪雨からまもなく六年を迎えようとしています。そのような中、先月開催されました「GO!GO!ラリーin熊本2026」では、初夏の光に包まれながら、全国から集ったクラシックカーが二日間、にわたり県内各地を駆け抜けました。長い時を刻んできた一台一台が、五木の山並みを越えて本市を訪れ、人吉駅、青井阿蘇神社、ふるさと歴史の広場を巡る姿は、この地に寄せられた温かな思いと、復旧・復興の歩みを見守り続けてくださった多くの方々の真心を運んでくるかのようにでした。

両日とも沿道には多くの市民の皆様が笑顔が広がり、「来てくれてありがとう」との温かな声援が響きました。その一言一言には、支えていただいたことへの感謝と、再び前を向いて歩みを進めるこの地の思いが込められており、人と人とのつながりの尊さ、そしてまさに生まれる賑わいの力を改めて実感いたしました。

こうした賑わいと希望を一過性のものに終わらせることなく、確かな力として未来へつないでいくことが重要です。本市が有する歴史、文化、自然、温泉をはじめとする地域資源をさらに磨き、それらを活かしたまちづくりを進めることで、新たな交流と活力が循環する人吉の未来を築いてまいります。そして、復興の先にある新たな人吉の姿を、市民の皆様とともに着実に形にしてまいります。

引き続き、各部局の主な施策等について、お時間をいただき述べさせていただきます。防災関係でございますが、大規模災害への対応には、公助のみならず共助の取組が不可欠であり、その要となるのが、住民に最も身近で地域に精通した町内会単位の自主防災組織です。

本市では、自主防災組織が効果的かつ機能的に活動できるよう、地域に応じた防災計画の策定を進めています。令和六年度までは、八十九の自主防災組織のうち、二十八組織が策定され、策定率は約三十一パーセントでしたが、昨年度は新たに三十六組織で策定が進み、合計六十四組織、策定率は約七十二パーセントまで上昇しました。

また、去る五月二十四日の自主避難訓練では、各町内において独自の訓練を組み入れるなど、地域の実情に応じた避難訓練を実施していただきました。指定避難所においては、マイナバーカード等を用いた受付訓練を実施するとともに、今年度から運用が開始される新たな防災気象情報に関する研修会を開催し、いずれの会場にも多くの方々に御参加いただきました。今回は人吉球磨地区の四つの高校から防災ボランティアとして生徒の皆さんに御参加いただいたこともあり、訓練全体の参加者数は昨年度を上回り、地域の防災意識の高さを改めて実感したところです。

今後も、地域の皆様と連携しながら、自主防災組織の充実と防災力の向上に努めてまいります。

土木関係でございますが、避難路整備事業につきましては、二十二路線の整備計画に対し、これまでに七路線の整備に着手しております。今年度は、相良町の市道相良薩摩瀬瀬二号線の整備が完了する見込みであり、市道温泉町地内第一号線に続き、計二路線の避難路整備が完了となります。

地域や地権者の皆様の御理解と御協力に深く感謝申し上げますとともに、引き続き、全ての避難路の一日も早い整備完了に向け、鋭意推進してまいります。

公共施設の整備関係でございますが、東西、東間、大畑、中原の四つのコミュニティセンター施設設備改修工事として、トイレの洋式化を行います。温水洗浄便座や手すりを整備し、利用者の利便性向上を図ってまいります。

特に、東間、大畑の両コミュニティセンターは、指定避難所としての役割も担っているため、災害時に子どもから高齢者まで、誰もが安心して利用できる環境を整え、避難所機能の強化にもつなげてまいります。

学校の防犯対策関係でございますが、近年、学校を取り巻く安全リスクが多様化する中、適切な防犯体制の確立が求められています。本市におきましても、不審者に対する抑止力強化と事案の早期発見を図り、児童生徒や教職員の安全を確保するため、市内小中学校に防犯カメラを設置してまいります。

今後、プライバシーへの配慮と安全性のバランスに留意しながら、児童生徒が安心して学べる学校環境の整備に努めてまいります。

まちなかランドデザイン推進アクションプランでございますが、昨年度に展開しました多様な社会実験の成果と課題を整理しております。これらの検証結果を踏まえ、今年度

はまちなか図書館や、球磨川と胸川の合流部の河川道路を球磨川テラスとして環境整備するなど、具体的な空間の実装に向けた取組を着実に進めてまいります。また、その他のエリアにつきましても、まちづくりデザイン会議等における議論をさらに深め、方向性が定まった取組から実装へつなげるとともに、必要なインフラ整備に取り組んでまいります。併せて、公民連携基本計画を策定し、民間企業が有する「専門性」や「稼ぐ力」と、行政が有する「公共性」や「信頼性」を掛け合わせることで、持続可能で魅力あるまちづくりを推進してまいります。

引き続き、「住み続けたい」「行ってみたい」「共に楽しみたい」と感じていただけるまちの実現に向け、公民連携のもと、将来像の具現化に向けた歩みを進めてまいります。

人材確保策関係でございますが、近年、公務員志望者の減少に加え、民間企業との人材獲得競争が一層激しさを増しており、本市におきましても、とりわけ保健師や土木、建築をはじめとする専門職の確保は、極めて厳しい状況が続いております。

このような中、意欲と経験を兼ね備えた人材を、機を逃すことなく迎え入れるため、これら三職種を対象に、年間を通じて受験申込を受け付ける「通年採用」を新たに導入しました。学歴は不問とし、第一次試験を書類評定とするなど、これまでの経験を活かし、挑戦しやすい仕組みを整えたところです。

職員は、市民の皆様の暮らしを支え、まちの未来を共につくる、かけがえのない財産です。多様な経験と確かな専門性を有する人材の登用を通じて、市民の皆様の期待に応えられる市役所づくりを着実に進めてまいります。

タイ外務省国際協力局のボランティア派遣事業「フレンズ・フロム・タイランド」により、令和四年から日本へのボランティア派遣が開始されております。初年度は人吉球磨地域に派遣いただき、令和五年度には短期ボランティア一名の方を本市に派遣いただきました。

今回は、一年間の長期ボランティアとして、去る五月十一日に一名の方に着任いただきました。教育部社会教育課に籍を置き、外国人の視点からの多文化共生に関する情報収集やアドバイス、市民向け講座、小中学校での文化交流、在住外国人へのやさしい日本語による市政情報発信、歴史や観光情報の多言語発信など、様々な分野での活動を期待しております。

次に、令和二年七月豪雨災害から六年を迎えるに当たり、来る七月五日に、市庁舎において追悼式を執り行います。今年度もこれまでの歩みを振り返るとともに、御参列の皆様を代表して地元高校生から追悼のことばをいただく予定としております。また、六月二十九日から七月三日までの期間、市庁舎一階に献花台を設置いたします。御遺族をはじめ来庁される皆様に献花いただくとともに、犠牲となられた方々への哀悼の意を捧げ、災害の記憶と教訓を次の世代へ引き継いでまいります。